

2. 学生グループ共同研究報告

他者の鏡になる —フリーペーパー制作による他己表現の可能性—

研究代表者：汐崎空

共同研究者：市原芽美

目次

はじめに

第1章 なぜフリーペーパーか

第2章 フリーペーパー制作とその後

第3章 他己表現から得られたこと

おわりに

はじめに

SNSの普及によって自分のことを自由に発信できる社会になったが、他方で様々なりスクや他者の視線を意識せざるを得なくなった。SNSを通して私たちは本当に「自己表現」ができているのだろうか。

他者からの監視とも取れるようなまなざしを感じながら、現代を生きる若者は自分のアイデンティティの確立を追い求めている。社会的ネットワークの形成において周囲から自己の存在を認められたいという承認欲求があるが、これは人とつながることにおいて自己の存在が他者によって認められ、相手とのやり取りによってその存在を確かなものにしたという欲求である。また、自己の存在をまず承認すること、また承認されることがキャリア形成プロセスのアイデンティティの確立においても重要である。

SNSを利用した自己表現においては、他者からのまなざしを意識して、どこか取り繕ってしまう部分が少なからずあるだろう。だからこそ、SNSにおいて見られるような単なる承認欲求からなる画一的な自己表現とは一線を画すためにも、自分ではない誰かに自分の魅力を表現してもらうことは、有意義な自己表現の方法の一つになるのではないだろうか。

本研究では、以上のような問題意識にもとづき、身近な友人を独自の切り口で紹介する他己表現のメディアを制作し、その可能性について考察する。そして、その媒体をフリーペーパーとする。研究対象は、他己表現を目的とした制作であることから、自分が対象者の魅力をよく分かっている必要があるため、身近な友人とした。自分では気付かなかった自分の魅力を他者の手によって可視化してもらい、さらに作品として周囲の人々に見てもらうことによって、前述したようなSNSにおける画一的な自己表現とは異なる形でのアイデンティティの確立が期待できる。

お互いの日常をリアルタイムで気軽に発信し合うことができるようになったが、その一方で、周りの人々に監視され、またこちらも監視するような状態である現代。そんな中で、本研究で制作するフリーペーパーが他者を解放してあげられるような、SNSへのアンチテー

ぜとなり得るようなものになるのではないだろうか。ではなぜそれがフリーペーパーであるのか。本研究では、このことについてもみずからの創作活動を通して考察する。

これらを通して、他己表現の意義について考えるとともに、自分では表現できない魅力を他人の手によって表現することは、自己表現の新しい形の創造につながるのかを検討することが、本研究の目的である。

第1章 なぜフリーペーパーか

1-1 鏡に映った自我

社会学者のC.H.クーリーが提示した「鏡に映った自我」の概念においてもわかるように、人間は他者の反応に対する自我の反応として形成される「社会的自我」をもつ。他者は自己を映し出す鏡であるとも言えるため、他者という鏡に映った自分、すなわち他者から見た自分の姿をイメージして、「社会的自我」は形成されていく。人は誰しも、自分が他者にどう映っているかは分からず、推測するほかない。「おそらくこういう風に思われているのではないか」といった推測を重ねるうちに、人の視線ばかりを気にして悲観的な感情に陥ってしまいやすいとも言えるだろう。

そこで、「あなたは私にはこのように映っている」というメッセージが伝われば、想像や推測の域を飛び越えることが可能になるのではないか。自分のアイデンティティを自分ひとりで確立するというのは難しい。だからこそ、自分では見ることができない自分の魅力も他者という鏡(ここでは今後制作するフリーペーパー、そしてそのメディアの受け手による反応を指す)を通して見つめ直すきっかけになる可能性がある。つまり本研究では、作った作品、そしてそれを読んだ受け手が、対象者の鏡となることを目指す。

1-2 媒体としてのフリーペーパー

本研究では、他己表現をするための媒体としてフリーペーパーを選択した。対象者を選び、対象者によってテーマを設定してフリーペーパーを制作することで、自分から見た対象者の魅力を表現し、対象者や受け手側に提示することにした。

フリーペーパーという媒体を選んだ理由としては、作り手の熱意や思いが、デジタルなメディアよりも受け手に真っ直ぐ伝わると考えたためである。デジタル化が進み、さまざまな情報で溢れかえる今、自分の作ったものを誰かに読んでもらうためにはそんな情報の渦の中から見つけ出してもらう必要がある。見てもらえたとしてもほとんど流し見になってしまう可能性が高いだろう。

しかし、フリーペーパーという紙媒体であれば実際に手に取って読んでもらえるため、より確実に情報が伝わりやすい。これに加えて、絵や写真、文章などを通した世界観をまとめて表現することができるため、フリーペーパーは非常に自由度の高いメディアであると考えられる。

本研究を通して、他己表現が、対象者はもちろん、それをおこなう筆者自身の心境にも何か影響を与える可能性がある。そのため、他己表現をされる側、する側の双方への心境の変化についても制作後の調査を通して考えたい。他人の魅力を引き出すという行為自体も、本研究が目指す自己表現になる可能性がある。本研究におけるフリーペーパーの制作やその後の調査をもって、他己表現がもたらす効果や影響を明らかにしていく。

第2章 フリーペーパー制作とその後

2-1 フリーペーパーと先行研究

フリーペーパーを制作する上で、その定義と先行研究について触れておきたい。久保(2013)は、フリーペーパーは文字通り受け取れば「無料の紙メディア」であるが、日本生活情報紙協会が平成15年に作成した「フリーペーパーの定義」をもとに、フリーペーパーの定義を「記事と広告で伝える無料の地域生活情報紙誌」とした。また、久保はフリーペーパーを7つに分類し、第1分類の「コミュニティペーパー（いわゆる地域情報紙）」が最も数が多いとした上で、最後の第7分類に「新タイプ」として伝統的な枠を超えた自由なフリーペーパーを挙げ、大学生も隠れた発行者であると述べた。しかしながら、フリーペーパーは生活者である読者に寄り添い、その心を知り、役に立つ情報を届ける使命を負う。ここに“地域貢献”の視点が生まれるとの意見を主張するなど、あくまでフリーペーパーは地域活性のための道具であるとの見解を示した。

年月を経て、現代においては、久保が挙げた第7分類の「新タイプ」は、もはや「新」ではなくなっていると言えるだろう。自分の好きなことをただただ紙面に表現したり、趣味の布教(宣伝)活動をしたり、そうした自由(フリー)なメディアを取り扱うフリーペーパー専門店が存在したりと、地域貢献が主な目的とされていたフリーペーパーは、現代においては立ち位置が変わってきていると考えられる。

本研究において制作するフリーペーパーは、久保が提示した分類の中でも「新タイプ」とされる第7分類のものである。伝統的な枠を超えて、ひとりの人間のとなりを題材に制作していく。

2-2 魅力的なフリーペーパーを制作するために

以上のようなフリーペーパーを制作する上での前提を踏まえた上で、制作の対象を仲の良い友人とした。本研究の目的は自己表現による他己表現であるため、過ごしてきた時間の長い友人の特徴や魅力を自分ならではの視点で表現することで、新しい形のフリーペーパーが作れるのではないかと考えた

〈フリーペーパーの構成〉

タイトル 「図説 いちはらめぐみ」

p.1 表紙

p.2 フリーペーパーの説明、めぐプロフィール

p.3, 4 めぐと歩く路地裏さんぽ

p.5, 6 めぐのエモーショナルプレイリスト

p.7, 8, 9, 10 Megmarks (映画紹介) (図1)

p.11, 12 めぐ's ファッションづかん

p.13 めぐ年表

p.14 あとがき、感想

p.15 裏表紙



図1 制作したフリーペーパー（抜粋）

フリーペーパーの構成を試行錯誤する中で、友人が大の映画、音楽好きであるという点に着目し、彼女がこれまでに触れてきた映画や音楽、本を記すことで、彼女の人となりも伝わるようなものにしていく。

フリーペーパー制作の対象者は、対象者の鏡となり、自己表現の手助けをするという前提を踏まえて、自己表現にある程度の抵抗感を持っている必要がある。対象者となる友人は、ふだん周囲の人物と接する際にも周りを立てることが多く、自分の魅力を誇示することもない。だからこそ、自己表現に対して消極的な彼女を対象としてフリーペーパーを制作することで、彼女が気付いていない彼女自身の魅力を引き出すという成果が得られるのではないだろうか。

2-3 制作後の調査方法

他己表現をされた対象者（受け手）に対しては、のちに感想を述べてもらい、表現に対する感じ方や心境の変化などを聞き取る。学内の生徒にもフリーペーパーに対する反応を調査する。また、制作者として他己表現をする自分自身（作り手）の心境の変化についても自己省察し、記述することを試みる。

第3章 他己表現から得られたこと

3-1 対象者の感想

対象者に、フリーペーパーの制作やその内容に関する聞き取り調査をおこなった。

まず、自分自身のフリーペーパーが制作されることに対して、どのような印象を持ったのかという点に関しては、以下のような感想が得られた。

「私はそもそも自分を表現することがあまり得意な方じゃないので、私のことをよく知っている友達に自分のことをフリーペーパーで表現してもらって嬉しかったし、やっぱり愛がないとここまでクオリティが高くて、狂気じみたものは作れないので、とても愛を感じることができました。」

自分のことをよく知る人物による他己表現が、対象者の心境に良い影響を与えたことがわかる。また、過度に情報を詰め込んだ誌面に対してもポジティブな印象を持ったようだ。

また、自分の気付いていなかった魅力に気づけたかどうかに関しては、以下のように述べた。

「自分の魅力を自分で見つけて、しかも周りにアピールするってなるとけっこうハードル高いかなって感じで今までしてこなかったけど、私の魅力って他の人から見たら、自分が思うよりもたくさんあるのかもなって思えました。私の好きなものを代わりに紹介してくれてるのも自分で紹介するより恥ずかしくなくてありがたい！フリーペーパーの対象になることってなかなかないことだと思うので、めちゃめちゃ良い体験になりました！ありがとう！」

対象者の気付いていなかった魅力を引き出すという、本研究におけるフリーペーパー制作が目指した成果を得られたことがわかる。

3-2 周囲の反応

学内の生徒にも、フリーペーパーの内容に対する感想と、友人を対象にフリーペーパーを制作することに対する考えについて聞き取った。

〈フリーペーパーの内容について〉

- ・表紙の情報量がすごくて、何について作ってるものなのか気になって読みたくなった
- ・音楽とか映画とか、知らない人がおすすめしているものより、知ってる友達のおすすめしてるものの方が見たいと思った
- ・映画が本当に好きなんやなってというのが伝わった
- ・趣味がこんなにあるとは知らなかったので興味深かったし、対象者のことを知れる内容だったと思う
- ・より深く対象者のことを知りたくなった
- ・勝手にプロフィール作るの面白いし、仲良い友達で、相手のことよく知ってるからこそできることだと思った

〈自分ではなく、他人を対象にフリーペーパーを制作することについて〉

- ・私は他人にそこまで興味がないけど、自分じゃなくて他人にこれだけ熱意持ってやれるのはすごいし、そういう熱意をかけられるくらいの人だと思うと興味を持てた
- ・アイドルとかの推しのために何か作るのはあるけど、友達で作るのは初めて見たから面白い

- ・自分の作るよりも、人の作るのは労力があると思う
- ・自分のも作ってもらいたい
- ・私は自分にあまり自身が持てないけど、友達から見たら私の魅力ってどういうところにあるのか気になるから、こうやってこんなに時間とかかけて作ってもらうのいいなって思った

以上のような反応が得られたことから、まずはフリーペーパーのデザインや内容にこだわりを持つことで「面白い」と感じてもらい、そこから他人を紹介するという行為や、対象者への興味にもつながったのではないだろうか。本研究におけるフリーペーパーは友人の魅力伝えたいという熱意から制作されたものであるからこそ、他人に対して興味を持っていない人でも抵抗なく受け入れることができたと考えられる。

3-3 自分の中での変化

本研究でのフリーペーパー制作を通して、筆者自身、良いものを作りたいという強い気持ちで制作ができた。くわえて、対象者からの感想を受けて、他己表現が対象者自身も気に入っていなかった魅力を見出すための手助けになったといえるだろう。自己表現が難しいと考えていた対象者の魅力を、身近な友人ならではの視点で引き出し、他己表現として表現することができたのではないだろうか。

また、制作途中で他のさまざまなフリーペーパーを読んで、どのような物が「面白い」と思えたかを考えてみると、「好きなものの良さを伝えたい」という作者の強い意志や熱量が伝わってくるか、作ること自体を楽しんでいるかが重要なのではないかと推測できた。「誰かの役に立つ」とか「有意義であるかどうか」をあまり意識しすぎず、自由(フリー)で良い、という一種の「ゆるさ」をもって制作することが、フリーペーパーを制作する上では良い効果をもたらすのではないかと考えられる。特に創作活動においては、自分の幸福を追求することこそが、それを目にした人も楽しめるようなものを作るための近道になり得る。好きだと思ったことに楽しんで打ち込んでいけば、それはいつしか他者をも巻き込んで、「楽しい」の連鎖を作り出すのである。熱意や「好き」という強い思いは、フリーペーパー含め、ありとあらゆる物事において受け手に伝わるだろう。

テレビや新聞といった、受け手が必要とする情報や、社会に広めなければならない情報を伝えなければならないメディアとは異なり、フリーペーパーは自分が伝えたいことを好きに表現してもいいメディアである。むしろ、自由に好き勝手に、しがらみを感じずに作ることが必要とされる媒体であると考えられる。そうした作り手の遊び心は受け手にも伝わって、構えることなく、「ゆるさ」を感じながら媒体に触れてもらえるのではないだろうか。

他己表現を目指すフリーペーパーを制作することで、他己表現の面白さ、楽しさを実感するとともに、フリーペーパーに限らず、人の興味をひくものとはどのようなものなのかを明らかにすることができた。

おわりに

本研究では、自分では表現できない魅力を他人の手によって表現することは、自己表現

の新しい形の創造につながるのか、という問いについて考察してきた。身近な友人を魅力的に紹介し、対象となる他者を解放することを目的として、独自の切り口からフリーペーパーを制作した。

自分では表現できない魅力を他人の手によって表現するという他己表現は、新しいクリエイティブな形での自己表現である。対象者の魅力を引き出すフリーペーパー制作という形でクリエイティブに自己表現をすることで、他己表現と自己表現の関係性、そしてその可能性を見出すことができた。誰もがクリエイティブに創作活動をするというのは難しいが、ファッションやアート、音楽など、ジャンルを問わず自分の好きなものに対する「作りたい」「伝えたい」という強い思いがあれば、きっと魅力的な自己表現ができるはずだ。

本研究でのフリーペーパー制作は、対象者のみならず、制作した筆者自身の心境にも良い影響をもたらした。相手を幸福にするための行為は、いつしか自分自身をも幸福にする行為となるからこそ、他己表現は相手のためだけでなく、自分のためにおこなうものであったと言える。本研究で得た知見を活かして、今後も周囲の友人や、人生で関わるさまざまな人々の魅力を見つけて、表現し、他者の鏡となれるよう生きていきたい。

参考文献

- 石川俊佑(2019)『HELLO, DESIGN 日本人とデザイン』幻冬社
佐藤尚之(2018)『ファンベース 一支持され、愛され、長く売れ続けるために』ちくま新書
久保まり子(2013)『フリーペーパーとは何か?』情報の科学と技術 63巻10号
久保(川合)南海子(2022)『「推し」の科学 ―プロジェクション・サイエンスとは何か』集英社
佐々木チワワ(2022)『「ぴえん」という病』扶柔社